

食品廃棄物リサイクルシステム

現在日本では、食品の自給率が40%と輸入に頼っているにもかかわらず、大量の食品廃棄物（未利用食品）が発生しています。

食品廃棄物の発生抑制と有効な再利用のために、食品リサイクル法が施行されています。

ユニーでは店舗からの食品廃棄物をできるだけ発生させない取り組みと、

排出してしまった食品廃棄物を循環資源として再利用するための「食品リサイクルループ」の構築を推進しています。

ユニーの方針

ユニーの食品リサイクルの方針

2001年にユニー環境部が設立された時点で、食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、20%以上リサイクルなどの実施が義務付けられていました。ユニーはこの数値を達成するために、「食品リサイクルの方針」を決めました。食品リサイクルの方法として、環境負荷の少ない、経済的に負担が重くなく、持続可能なものを構築してきました。特に再生品・農畜産物を自社で販売するリサイクルループの構築にこだわっています。

その後2007年に食品リサイクル法が改正され、新たに小売業45%というリサイクル率目標が設定され、さらに取り組みの強化を図りました。食品リサイクルは、自然環境や生物多様性を保全し、持続可能な地域循環を目指すものです。

① 安全であり環境負荷が少ないこと。
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)

② 再生資源として有効であること。
(有価資源になり再廃棄しない)

③ 経費が抑えられること。
(公共処理料金との比較)

④ 継続できる方法であること。
(リサイクルルートが確立していること)

リサイクル実績

店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)	2009年度			2010年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
生鮮食品の調理クズ(野菜果物など)、賞味期限切れや飲食の食べ残し	16,197	4,437	27.4	14,777	5,685	38.5
魚のアラ(魚介類の調理クズや内臓・骨)	4,053	3,541	87.4	3,712	3,190	85.9
廃食用油(使用済み揚げ油)	1,441	1,441	100.0	1,418	1,418	100.0
てんかす(フライやテンプラなどの揚げカス)	1,217	25	2.1	1,303	85	6.5
合計	22,908	9,444	41.2	21,210	10,378	48.9

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルの構築に努めてきました。

2000年

- 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
- 名古屋市市内店舗に熱乾燥処理機導入（アビタ新守山店）

2001年

- アビタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加

2002年

- 茨城県で堆肥へのリサイクルに取り組む
- 愛知県内2店舗に真空乾燥機導入（アビタ岡崎本店・アビタ東海荒尾店）

2003年

- 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加（バイオガスによる発電）

2004年

- 長野県（アビタ伊那店）・奈良県（アビタ大和郡山店）の店舗に真空乾燥機導入
- 愛知県内3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
- 三重県で堆肥へのリサイクルに参加（アビタ鈴鹿店）

2005年

- 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始（アビタ松阪三雲店）

- 愛知県で2店舗（アビタ瀬戸店・アビタ江南西店）乾燥機導入

2006年

- 横浜市内3店舗が、店舗から排出した食品残さを飼料にして飼育した豚の肉を販売する「横浜有機リサイクル」（登録再生事業）に参加

2007年

- 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- けやきウォーク前橋（アビタ前橋店）・アクアウォーク大垣（アビタ大垣店）に真空乾燥機を導入

2008年

- 愛知県一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるユニー・サークルKサンクスで取り組むリサイクルループが完成し、食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- アビタ御嵩店に真空乾燥機を導入

2009年

- 名古屋市内および春日井市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取組「中部有機リサイクル」に参加
- 石川県・山梨県・三重県で地域の再生利用事業者や農業生産者とともに新たなリサイクルループを構築予定

- 名古屋市内および春日井市・瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料化施設「中部有機リサイクル」に搬入し、リサイクルループの構築を図る
- 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める

2010年

- 三重県（三功）、神奈川県（横浜市有機リサイクル）、富山県（富山グリーンフードリサイクル）の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月横浜市有機リサイクルが認定される
- 愛知県（中部有機リサイクル）のエコフィードで豚の飼育実験を実施
- 千葉県（ブライトビック）では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートとの共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコボックスで作った惣菜パン」を販売

2011年

- 3月ブライトビック・山崎製パンのリサイクルループが認定される。6月エコボックスの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
- 6月三功のリサイクルループが認定される
- 愛知県・岐阜県（中部有機リサイクル）のリサイクルループを申請。岐阜県多治見市を組み込んだ
- 京都府（京都有機質資源）のリサイクルループを申請